BBC SPORT　　2013 年 5 月 4 日

ドーピング・スキャンダルの内幕・・・競技にとっての根本的な問題

by Frank Keogh（BBC Sport in Newmarket）

ニューマーケットの噂の話題はなにはさておき競馬だが、今ほど盛り上がったことはない。そう、これは競走馬のドーピング・スキャンダルなのだから。

マームード・アル・ザルーニ調教師が 15 頭の馬にアナボリックステロイドを投与したことを認め、8 年間の資格停止処分を受けてから 2 週間、ニューマーケットの同僚の調教師ジェラルド・バトラーは、英国競馬統括機構（BHA）から、別の審問を受けていた。彼の厩舎の馬 9 頭が、陽性の検査結果を出したからだ。

・・・

かそれとも特異な事例に過ぎないのかという点、である。

裏切られたクラシックへの期待から、車窓から外に渡されるステロイド入り注射器にいたるまで、まるでディック・フランシスのミステリーのようだ。
事実とフィクションは切り離して考えよう。
このスキャンダルは広がる可能性があるだろうか？
人によって見方は違うだろうが、短期的には、事例はもうこれ以上見つからないかもしれない。BHA の言によれば、アナボリックステロイドの使用はそれほど広まっておらず、年間を通してランダム・テストを行っているが、このような性質の審理中の事例は、知る限りではない、ということである。

自らの厩舎に約 30 頭の馬を所有するバトラーは、ニューマーケットを本拠とする 100 頭以上の馬が、獣医のアドバイスに従って同じ「サンゲート」で治療を受けていたことは確信できる、と言った。
競馬の内部関係者は、この主張は「下手に事をややこしくした」と言った。次は誰？他にどの厩舎が関わっていたのか？

しかし、他のヤードがこの製品を使用していて、BHA が馬の検査をおこなったとしても、結果は不発に終わるだけだったろう。BHA はレース当日の検査を 7,000〜8,000 例もおこなっていながら、レース以外の検査となると、年間 700〜800 例にとどまっているのが現状である。その理由の一つは、予算不足である。

獣医学の専門家がアル・ザルーニに対しておこなった調査で明らかになったことは、服用から 28 日経った後にもアナボリックステロイドが馬の器官に痕跡を残している、ということだ。

ニューマーケットの調教師ジョン・ベリー（町会議員でもある）は言った。「このルールをうっかり破ってしまった他の調教師たちは、間一髪で逃れた、ということではないか。」

アル・ザルーニの言葉は「始まりの終わり」だったと BHA は言い、木曜日に、ニューマーケットの第二のゴドルフィン厩舎であるサイード・ビン・スルールのヤードに検査官を派遣した。

「これがレースにおける最後の陽性結果になると思うかって？いや、思わないね。氷山の一角だと思うかって？いや、思わない。」と、BHA の最高経営責任者（CEO）ポール・ビターは言った。

・・・

•ドバイミレニアム、ラムタラ、ファンタスティックライト、ストリートクライも、ゴドルフィン所属のビッグレース優勝馬である。
・・・

「調教についてだが、11 月から 4 月までの季節にニューマーケットのギャロップに行くと、まだ暗く、凍るように寒く、痛烈な風が吹き、競走馬にとって完璧な環境とは言い難い。
「これは、ドバイ・カーニバル会議のために馬を送り出したヨーロッパの多くの調教師が言ったことだが、ドバイでは施設が優れ、太陽が顔を出し、サラブレッドが繁殖する条件がそろっている、ということだ。」

・・・

プであるポール・ビターと並んでいたのか？

「別々の記者会見を 2 回おこなうよりも、あの場にいたすべての人の目に、後方支援という意味に映っていた。彼らが同じテーブルについているからと言って、彼らが同じ側にいることを示すわけではないが。」とマウンジーは言い添えた。
「それは完全に正常なプロセスであり、我々は他のスポーツからのアドバイスを受けた。」

違反が明らかになった後、なぜこれほど迅速に審理がおこなわれたのだろうか？

アル・ザルーニはすでにドーピングを告白していたから、彼が評決に異議を唱えていた場合よりも、結論が容易なケースではあった。

BHA はこの事件が早急に解決されることを望んだ。馬の将来の見通しが不透明なままでは、今後のレースと賭博市場に影響を与えかねないからだ。そして BHA は、今回のことが、いまだに消えない疑問についてゴドルフィンをより広範に取り調べることの一環である、と懸命に強調している。

シェイク・モハメドは、今回のすべてのことについて、どう考えているのだろうか？

競馬ブロードキャスターであるデレク・トンプソンは、40 年にわたるテレビとラジオのキャリアの中で、シェイク・モハメド・ビン・ラシッド・アル・マクトゥーム殿下を数多く取材してきたが、このスキャンダルによって殿下が「ショックを受けている」にちがいないと確信している。
トンプソンは言った「彼は何よりもまず馬の恋人であり、何をするにせよそれに勝つことを愛しているが、私の意見では、いついかなる時も競技ルールを侵すようなまねはしないはずだ。」
「シェイク・モハメドがエンデュランスの現世界チャンピオンであり、自身が 60 歳を越えていることを認めないかもしれないが、実際にはそのような年齢だ、ということを忘れないでほしい。」
「このような信じがたいほどの身体能力を持っていることは驚異的である。特に、ドバイの統治者と言う彼の責務を考えると特に、1 日 25 時間、週に 8 日は働いていることになるだろう。」

ジャーナリストのリドルはつけ加えた「非常に屈辱的なできごとであったはずだ。モールトン・パドックで手綱を取らせるために選んだ人物は、自らに置かれた信頼を完全に裏切ったのだ。」

エンデュランスとは何か？

エンデュランスには、通常はアラビア馬で 100 マイルのトレッキングがあり、FEI の監督下に置かれている。FEI は別に、オリンピック競技種目である障害飛越競技、総合馬術、馬場馬術も管理運営している。

シェイク・モハメドは、FEI 会長ハヤ王女と結婚している。2009 年には、騎乗したタッハンがアナボリックステロイド検査で陽性となったため、6 ヶ月間の出場停止処分を受けたこともある。

彼の調教師で 1 年間の資格停止処分を受けたアブドラビン・フザイムは、シェイクに知らせずにその薬を投与した、と述べた。

ゴドルフィンのこの話題は、ドバイではどのように語られているか？

「ドバイのメディアは、このニュースの取り扱いに苦慮している。シェイクは単に支配者というだけでなく、彼らの国の大使だからである」とリドルは言った。

BHA は直接シェイクに話したか？

「私は、個人的にシェイク・モハメドと話したことはない。ゴドルフィンのレーシング・マネージャーであるサイモン・クリスフォードを通して、問題を扱ってきた。」とビターは言った。
「我々は、シェイク・モハメドが我々に語りたい時も、我々が彼に語りたい時も、同じ土俵でそれが可能になるようにしてきた。」
「最終的には、調教師が単独で責任を負う。サイモンはゴドルフィン内で多くの責任を持っているので、今まで、私たちとの接触点となってきた。」

・・・

ーは言った。

陽性サンプルのソースが「EU で認可され、獣医の業務で使用するために合法的に輸入され、その最初の投与は獣医によって推奨されたものであった」ことを BHA は認めている。

バトラーが「インディペンデント」紙に語ったところでは、彼の獣医が最初の投与をおこなったが、彼自身が 4 頭の馬にその薬を与え、怪我を直すために馬の関節に注射した、ということだ。

彼の投薬記録に（承認の）ゴム印を押した、というバトラーの主張に対する BHA の返答は？

「このケースはまだ調査中なので、コメントするのは不適切だろう。」である。

バトラーのケースでの獣医はどうか？

BHA が言うには、獣医の代表者にインタビューした、とのことだが、BBC は法的な理由からその人物の名を明かさない。その獣医は、これまでのところコメントを控えている。

BHA は獣医に対して管轄権を持っているのか？

獣医は、英国競馬の運営組織ではなく、王立獣医師会(Royal College of Veterinary Surgeons)の管轄下にある。
「獣医たちは私たちの規則のもとで認可を受けているのではない。時々そのことは、我々にとって大きなフラストレーションとなる。だからといって、我々が彼らに問い合わせて知恵や情報を引き出すことができない、という意味ではない。」とビターは言った。
「我々は、ジェラルド・バトラーが名指しした獣医だけでなく、全国の獣医たちと継続的な議論をしている。」

現在実施されているのは血液検査か？それとも尿検査か？

「血液検査である。重要な点は、検査を実施しているのが BHA だということだ。これは BHA の調査なのだ。」とビターが付け加えた。
「モールトン・パドックで実施されているのも、ビン・スルールの厩舎で実施されているのも、すべての検査は、我々の検査チームがおこなっている。これはゴドルフィンが調べることではない。検査をおこなうのは規定の監督官であり、ゴドルフィンから完全に独立した人間である。」
「我々はゴドルフィンから全面的な協力を得ている、と言われているが、それはこのプロセスを簡単に言いすぎている。」

アナボリックステロイドについての競馬のルールはどうなっているのか？

イギリスの競馬においては、アナボリックステロイドは、いかなる形であれ非合法である。しかし、海外ではこのルールは異なり、オーストラリア、米国、ドバイを含む国々では、競技の場以外では使用が許可されている。ただし、競技当日には、馬の体の組織からこの物質が排出されていなければならない。

オーストラリア人であるビターは、WADA 規程（世界アンチ・ドーピング機関の定める反ドーピングの統一規程）がふさわしいとしている。

規則が変則的であるせいで、英国で調教された馬が、ロイヤル・アスコットなどの大会で海外のライバルと互角に戦えない、という意見もある。

しかし、オーストラリアの調教師ピーター・ムーディーは、彼の引退した記録破りの牝馬ブラックキャビアはアナボリックステロイドを投与されたことはない、と主張した。ブラックキャビアは 25 レースの無敗記録を誇る馬で、2012 年 6 月のアスコットでの勝利もそれに含まれる。

（以上）